

様式第4号(第7条関係)

東かがわ市議会議長 渡 邉 堅 次 様

令和6年7月17日

東かがわ市議会議員 会派 個人・その他) 氏名 田 中 貞 男

行政視察等報告書

1	日時	令和6年7月1日~7月2日	
2	参加者	田中貞男 大田稔子 工藤正和	橋本守 堤弘行
3	研修目的等	内 容 リノベーションまちづくり推進事業 地場産業「行田足袋」への支援等について	研修場所 千葉県館山市 埼玉県行田市
4	研修・調査内 容	リノベーションまちづくり推進事業は、「取り組んだ背景等についての調査」 地場産業「行田足袋」への支援等については、「近年の業界の推 移と足袋製造の現地調査」	
5	研修成果	別紙(感想・今後の取り組み等)	
6	費用	金88,704円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

令和6年7月会派行政視察報告書(7月1日から2日、千葉県館山市、埼玉県行田市) 千葉県館山市の「リノベーションまちづくり推進事業」について

1「リノベーションまちづくり」に取り組んだ背景について。

町の中心市街地の商店街が衰退し、空き店舗や空き家などが増加したことで活気がなくなっている状況が続いたため、遊休不動産の利活用を行政と民間が連携して推進してネットワーク作りをするリノベーションまちづくりの手法が最適と考えて取り組んだ。

- 2 この事業をきっかけとして、開業・創業した店舗や会社はどれだけあるのか。 また、地域再生計画の数値目標についての進み具合はどのようになっているのか。 令和になってから46件起業、内、飲食関係21件、その他(会社・施術院・動物関係) 25件。令和4年度で達成率80%、KPI増加率は77.8%
- 3 「館山リノベーションまちづくり構想策定委員会」は、行政主導で立ち上げたのか、民間主導で立ち上げたのか。

令和4年度にリノベーションまちづくり推進業務委託の一環で構想策定委員会を年4回開催し、地域住民や関連団体などの意見を聞き館山リノベーションまちづくり実行委員会の承認を得てパブリックコメントを行う流れになっている。民間が立ち上げ、行政は事務局をしている。

4 「館山リノベーションまちづくり構想策定委員会」の構成メンバーはどのようにして選出されたのか。

館山リノベーションまちづくり構想の策定委員は12名で、委託した企業と協議して 選出している。(まちづくり実行委員会4名、地元商店街や近隣商店街と市内の若手 事業者で構成。平均年齢は38歳)

5 リノベーションまちづくり推進事業に対する国からの事業支援が無くなったときは、ど のように考えているのか。

令和元年から令和 5 年までの地方創生推進交付金の事業計画が終了した。令和 4 年度 に策定した構想に基づいて行政と民間が連携して推進をしていく。

6 事業を通じて将来に期待すること、構想の実現への可能性については、どのように考え

ているのか。

「館山リノベーションまちづくり構想」に基づき行政と民間(まちづくり会社・住民・事業者)が連携して、様々なイベントを開催(あんもかんもマルシェ・駅前朝市・みんなの学園祭(月一度の定期)することで地元事業者とのネットワークを強化し、地域経済の活性化、関係人口の創出を図ることで構想を掲げて「若者が戻ってきたくなるまち」の実現を目指す。

研修成果

私達のまちも空き家や空き店舗の進み具合は非常に早い。館山市の取組みの中で行政 も関わってはいるが、民間活力が素晴らしいと思った。我が市も支援制度はあるが、も っと情報発信をして民間の活力を期待していくべきと思った。

埼玉県行田市「地場産業行田足袋」への支援等について

- 1 「行田足袋」の製造等に関わっている会社は何社あるのか、また、従業員数はどれくらいなのか。また、近年の業界全体の売上げの推移はどのようになっているのか。 現在は3社で、関連する会社は8社である。株会社イサミコーポーレーションの会社 (TV ドラマ陸王ロケ地)を現場視察させていただいた。ミシンを使った手作業工程を見せていただいた。関係会社全体の従業員数や売り上げ等については、非公開であった。
- 2 「行田足袋」の近年の全国シェアは何%ぐらいか。

昭和13年・14年頃は、全国8割の足袋の生産をしていたが、現在は35%。

3 足袋の製造用具や関係資料が国の重要有形民俗文化財に指定されているが、文化財に指 定された用具等の資料は、どの様に保存されているのか。すべての資料が博物館で保存・ 展示されているのか。

平成27年に創設された「新しい文化制度」において、「和装文化の足元を支え続ける 足袋蔵のまち行田」のストーリーで、平成29年4月に日本遺産に認定された。令和5 年度に再認定された。文化財の保存については、平日で休館日のために見れなかったが、 関係する物は博物館に保存展示されているとのことだった。 4 「足袋とくらしの博物館」の開館にあたり費用面で市・県などからの補助金はあったのか。

開館当時は補助金があった。現在は使われなくなった建物が博物館として生まれ変わっている。また、市内において足袋蔵は約40残っている。

5 「足袋とくらしの博物館」は土日限定の開館であるが、運営方法はどのようにしている のか。

NPO 法人で運営を行い、現在は費用補助していないとのことだった。展示物や職人の 実演などを見学できるようにしている。

6 行田市にある「ものつくり大学」は、開学から20年余り経過しているが、市との連携 など現状はどのようになっているのか。

平成25年から市とものつくり大学は連携をしている。市民向けの各種講座や各種審議 会などに教職員が参画し協力体制を深めている。

7 伝統産業として守っていく上で、技術継承や後継者育成について行政としてどのような 支援をしているのか。

「足袋のまち行田」活性プロジエクトと組合などを通じて行っていく。

8 「足袋蔵」については、商業振興や観光面でどのような活用をされているのか。また「足 袋蔵」などの改修に対して、行政はどのよう支援をしているのか。

和装の足元を支えるため、地方創生推進交付金などを活用していく。足袋蔵については、 個人の建物であるため支援は難しい。

9 「行田足袋」のこれからの課題は。

次世代にどのようにしていくかまだ見えていない。

研修成果

市からの説明を受けた後、足袋を製造している会社に現地視察をさせていただき、私達の手袋業界と大きく変わることがないと感じた。地場産業として、私達の手袋関係は120年の歴史であるが、行田市の足袋については300年の歴史である。時代の変化や生活環境の流れでこれからさらに飛躍をしていくのは難しいと感じ取った。私達のまち

も今以上に、世界に向けたグローバルな考えを取り入れた地場産業にしていかなければ と思った。また、歴史として手袋の流れを残す施設などを考え、流動人口を創っていく ことも必要でないかと感じた。

令和6年7月1日会派研修写真(館山市・行田市) 2日



行田市長と



行田市役所玄関



イサミコーポーレーション足袋工場





館山市リノベーションされた店舗



館山市リノベーション店舗

